

【相馬市】 校務D X計画

本市では、平成29年度より、各小・中学校において学習者用端末（タブレット端末）の導入を開始し、また、令和2年度から令和4年度にかけ、国のGIGAスクール構想に基づき、市内全ての小・中学校で1人1台端末（タブレット端末）を導入し、各学校のネットワーク環境も整備を行った。令和5年度にはクラウド型の統合型校務支援システムを導入し、各小・中学校教職員の校務の効率化や負担軽減を図ってきた。さらに、ICTを活用した学習等を支援するためにICT支援員を配置し、教職員の負担を軽減する取組も行ってきた。

このように、学校でのICT化を進めてきたところであるが、依然として紙ベースの文書や資料が多くみられるのも事実であり、業務の円滑化や効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要がある。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、以下の取組や検討を行い、校務DXを進める。

1. クラウドサービスの一層の活用

現在、福島県教育委員会が提供する「ふくしまクラウドサービス（FCS）」により教職員や児童生徒がGoogle Workspace for Educationによるクラウドサービスを利用できる環境にある。校内での資料共有やGoogle フォームを活用してのアンケート、授業におけるクラウド活用など、FCS活用についての校内研修を行っており、校内及び教職員、児童生徒間のICT化、クラウド活用は、多くの学校・教職員に広まりつつある。

一方で、「保護者からの問い合わせや連絡事項に係るクラウド活用」など、保護者を対象としたクラウド活用は、一部学校のみでの実施にとどまっている状況である。

今後は、公立学校研究指導員を中心とした校内研修の充実を図ることや、学力向上推進会議委員等指導員を通じ、授業や教育活動等におけるクラウドサービスの効果的な活用を積極的に進めるとともに、教職員の負担軽減や働き方改革に寄与できるよう校務DXを推進できるよう支援していく。

2. FAX・押印等の従来型の業務の見直しとペーパーレス化の推進

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の自己点検の結果では、「業務にFAXを使用していますか」「保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類はありますか」との問いに全ての小・中学校でFAXを使用している、押印・署名が必要な書類があると回答している。

令和3年度には、「相馬市規則で定める申請書等の押印の特例に関する規則」等を制定し、学校関係のみならず、市民が行う申請等の押印を省略することができる規則等で定めた。これにより保護者が行う各種申請等への押印を省略することができるようになったものの、補助金や就学奨励費などの受領を学校長に委任する際の委任状等には押印が必要となっている。

今後の取組として、FAXによる業者への発注の見直しを図り、職員会議等の完全ペーパーレス化を推進していくこととする。また、軽微な書類にも押印し書類で提出するというこれまでのやり方を見直し、学校と協議しながら押印が不要なものについては押印を廃止し、電子データでの提出等に替えていくこととする。

3. 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

本市で導入している統合型校務支援システムは、児童生徒の名簿等の情報入力を手作業で行うことも可能であるが、表計算ソフトで作成した名簿を用い一括登録することが可能である。

また、校務支援システムに登録した名簿を活用し、各種クラスごとの名簿や座席表などを作成することも可能となっている。

個人情報ファイルの取扱いには十分に留意し、効率的な校務を継続して行っていく。

4. 次世代型校務支援システムの導入検討

市内小・中学校においては、令和5年度よりプライベートクラウド上で運用する統合型校務支援システムを利用している。文部科学省の「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の成果等を参考にしながら、次世代の校務DXをより効果的に実現できるシステム導入の検討を実施する。